

子どもたち

あいどる

三
四
号

発行 社会福祉法人 路交館広報部
発行責任者 枝 本 信一郎
編集 あいどる編集委員会(中川)
〒533-0023 大阪市東淀川区東淡路2-7-5
TEL06-6321-3955 FAX06-6325-6320
ホームページアドレス <http://www.rokoukan.or.jp>
掲載の写真はアンケートに基づき掲載しています。



あけましておめでとうございます



新年、明けましておめでとうございます 路交館理事長 枝 本 信一郎

新しい年をおめでとうと言いなからではありませんが、人と人の間に隙間風がスースーと流れ、とりわけ子育て中の親や子ども、障がい児者、高齢者等々の「弱者」と呼ばれる人々が生きにくい状況は、新しい年でも変わらないように思います。「あした」にほとんど明かりが見えず、世の中全体が暗い状況にあることは否定しようがありません。その意味では、新しい年を共に喜びあうところではないとさえ思います。

が、そのような状況にあるからこそ、何とかして一筋の光を見出し、そのほのかな「明かり」に希望を見て、新しい年を共に喜ぶことが必要のように思えます。

人と人とのつながりを求め、そのようなつながり(=絆)を互いに育みあうことを通して、そのようなつながりを育みあう力を、私たち一人一人がすでに持っていることを確信することを通して、「今」の出来事の中に、ささやかではあっても、確かな「光」を見出したいと切実に願うのです。そこにこそ、「明日」への希望があり、その「希望」を確かなものにするためにも、新しい年を共に喜びをもって迎えることが必要なのだと思うのです。

正直なところ、新年号となる「あいどる」の巻頭言の依頼を受けたとき、困り果ててしまった。今日の状況に対する枝本の心象風景が真っ暗闇で、とても「新年おめでとう」と言える気分ではなかったからです。さりとて、年頭から暗い話になるのは、如何なものかと思ってしまって…。このあたりでは、自分に正直にはなりにくかったのです。70年近くも日本人をやっていると、新年は、希望を拓すというより、まずは共に喜ぶべきものとする、日本人の心性が根強く浸み込んでしまっているようです。

このようなわけで、締め切りを過ぎても、どんな原稿にするか悶々としている中で、この2週ほど、保育所や学童保育の生活発表会を見る機会があった。毎週土曜日、午前と午後の2本立てで、ちょっとしんどくはあった。が、特に、最後の学童保育の「つくしフェスタ」を見ながら、やっぱりここに希望を見て、年頭に当たっての巻頭言を書くべきなのだと気付いた。

つくしフェスタの内容を改めて述べる紙数はないが、例えば、3年生を立てるため「おまけ」と位置付けられた4～6年生男子のコント集というか何というか、全員での舞台発表は、そのすべてを子どもたちだけで考え作ったとのことだったが、二人の障がい児も含めて全員がそれなりの役割

をもって面白おかしく舞台発表を楽しんでいた。

当日の学童保育の他の発表も子どもたちの手作りながらそれぞれに面白かったが、改めて振り返ると、各(保育)園の生活発表会でも、確かに子どもたちだけで考え作るとまではならないとしても、子どもたちのそれぞれが自分の役割を演じ、また、周りの子どものことをさりげなく気遣う場面が随所に見られた。これら各園の生活発表会、大筋ではいつもの当り前の様子だったため、些細ないつもの違いや各園の違いにばかり目を奪われ、それぞれに多様な個性を持った子どもたちが、それぞれに自分の役割を演じ、観て貰おうとしている姿があることを見ていなかったことを反省させられた。

障害があるうとなかろうと、子どもたちは確かに今を生きており、精いっぱい自分たちの力を発揮して大人たちに自分の存在を主張する(観て貰おうとする)力を持っていることは間違いないことのように思える。もし子どもたちがそれぞれの力を十分に発揮できない姿があるとなると、大人の側の、子どもたち一人一人のつながりを育む支援が不十分なのか、あるいは大人の思い込みによる枠の中に閉じ込めた結果としか思えない。そんなことに改めて気づかされたのである。

このような子どもたちの姿にこそ、明日への希望を見出し、新年を共に喜びたいと思います。

ただ負け組にならないがために、自分の周りの身近な人々より少しでも前に出ようとするにばかり力を使い、人と人との間に冷たい隙間風がヒューヒューと流れる、今日の状況は、確かに寂しいし、生きにくいし、暗いことは否定しようがない。

が、ヒトは本来、互いを思いやる力、互いにつながりあおうとする力、ヒトとつながりあうことで自分を発揮できる力、持っていることを信じる必要があるのではなかろうか。

ヒトが本来持っているこのような力を生かすまで見せてくれる、子どもたちや障がいを持つ人々に寄り添いながら、これらの人々に学ぶことを通して、人と人との互いの温もりを感じあえるつながりを、共に育んでいきたいと切に願います。

新しい年を、読者の皆さまと共に喜びをもって、まずは身近な周りの人々とのつながりに気づき、それを共に育んでく年ができるよう願います。

ういず守口・滝井 秋のイベント参加です



ミュージカル♪ in 路交館フェスタ！

やつたね！ 11月3日の終演後
満足そうな笑顔がいっぱい！

ういず守口・滝井といえば ミュージカル？！取り組み初めて5年目となりました。

まず踊ってみる。まず歌ってみる。まず自分たちが楽しもう。そんなミュージカルが

今では「たくさんの人たちに見てもらいたい」見せるミュージカルになってきました。

それぞれ担当する役柄の台詞、ダンス、衣装。自分の役に自信も責任も持って、しっかり最後まで演じるぞという緊張が伝わりました。

これからもっと多くの発表の場で、この笑顔を伝えたいです。

（文責：大江）

ういず滝井・初 ミニ運動会です！

みんなで作った
手作り運動会！

ういず滝井では、生活介護・就労継続B型の利用者さんが「一緒に何かできる」んとちがう？という合同で活動する日（横割りと呼んでいます）を設けています。前号では「初めての遠足」を。そして今度は「初めての運動会」です。種目は？ 玉入れの玉どうする？ 運動会いうたらリレーや！ バトンや！表彰状や！湧き出てくる声をまとめて企画も準備物も何もかもが初めての手作り。当日はういず守口のメンバーの招待参加や応援もあり、ミニだけど、みんなで作った大運動会になりました。



（文責：黒田）

ホットコミュニティういる

！日帰り旅行に行ってきました！

10月4日にほっと日帰り旅行として神戸フルーツフラワーパークに行ってきました。皆さん昼食のバーベキューではお酒を飲んだりと楽しまれていました。その後、自由時間では各班にわかれ各々好きな事して楽しんだ後に皆でりんご狩りをしてお風呂に入り帰ってきました！！



帰りのバスの中でも
寝るメンバーはいなく
「楽しかったなー！！」
と皆で話していました。





花の植え付け交流



花の植え付け交流は6月頃からはマリーゴールド、11月頃からはパンジーと毎年2回行われます。

交流では花もってきたで〜！とメンバーの自己紹介から始まり、花の育て方の説明や一緒に苗の植え付けをしたりします。幼稚園や小学校からは歌やオペレッタ等のプレゼントがあったり、メンバーと子ども達が一緒になってゲームをすることもあります。子ども達との交流の時間はメンバーも楽しそうな嬉しそうな姿があったり、今までの経験があるからか子ども達の前に立っている時はすこし大きなお兄さん・お姉さんみたいに優しく教える姿が見られることもあります。中には今年流行のふなっしーを取り入れて「毎日水をあげてなっし〜！」などと言って笑いをとったり、また、メンバーからも積極的にジェンガしようや！と子ども達を誘ったり、クリスマスソングを披露するなどして盛り上がった所もありました。この交流を通して、ちゃんと育ててや〜お水あげてね！を伝えたり、ありがとうの気持ち等を忘れずにこれからも交流をしていきたいです！！



文責 東口 貴子



ウィリッシュでは各班に別れてお歳暮活動に取り組めました！

企画係りや宣伝係り、製造係りそして配達係りなどなど、各班のメンバーさんの個性を活かし、皆で悩みながら考えながら、楽しんで取組めたのではないかなと思います♪

(文責 安達)





路交館 大集合!! のオープニング

笑顔あふれた!! 路交館フェスタ



毎年、地域の方々と交流を持ち楽しい催しになるよう行ってきた「路交館バザー」。今年は名前を「路交館フェスタ」にあらため、より楽しく地域の方々とふれあいたいとの思いを込めて行いました。

公園では各施設のとおきのステージ・ゲームコーナー そして園庭・館内では活用品コーナーや食べ物コーナーをもうけ、当日は、ほんとうにたくさん方が遊びに来てくれました。

フェスタ開催にあたり多くの方々にご支援ご協力いただき大盛況に終えることが出来ました。ありがとうございました。

路交館フェスタ実行委員 中川 かをり



保育所 聖愛園 クレオでの最後の発表会!!

保育所聖愛園は毎年生活発表会をクレオ大阪北で行ってきましたが、閉鎖に伴いクレオ大阪北の舞台に立つのも今年で最後となりました。0歳児から5歳児までが大きな舞台に立つ経験ができたことで、身も心も一回りも二回りも大きくなる経験ができました。クレオの舞台!! 本当に今までありがとう!!

～練習風景～



～当日の様子～



感情の育成にも繋がっている事を感じました。聖愛園の「障がい児」共同保育として見ごたえのある発表会となりました。(文責 森沖 恵美)

お母さんたちに「頑張るからみててや!」とやる気いっぱい会場に向かう子どもたち。舞台袖では泣き声に会場が笑う場面もありましたが幕が上がると、びたりと泣きやんで笑顔を見せてくれたり、お母さんを見つけて思いっきり手を振ったり、ちょっぴり緊張しながらも練習以上の力をみせてくれましたね。日頃の練習風景が垣間見れ、どんなふうに取り組んできたかがよく見れた気がします。

特に5歳児の聖愛ヒストリーはどの役をやりたいか、オーディションしながら、友だちの前でセリフを言って演じ、やりたい役を勝ち取った子もそうでなかった子も、どの役も大切に思い、練習して行くたびに自分の演じている役が好きになっていくように感じました。練習には興味がなくなれなかったり、人前で演じたくなかった障がい児が、練習を重ねるごとに友だちが真剣に力いっぱい表現し、又楽しんでいるのを日々見ていて、当日劇の中に自然と参加し、友だちも違和感なく演じつづけている姿が見られ驚きました。「出来る・出来ない」は別として、障がい児にとって周りの子どもと時間・場所を共有すること、そこに障がい児が心を寄せられて憧れとなる「モデルとなる」仲間がいることが、結果的に障がい児の意欲を促し、彼らの成長と自尊



東湊路子ども館 つくしクラブ・杉の子クラブ

☆つくしフェスタ☆

文責：小西 雄太

つくし・杉の子クラブでは、12月13日(土)につくしフェスタ(学童独自の発表会)を行いました(〆〆)☆小学校下校後の、短い時間での練習でしたが、子どもたちは楽しんで、自分たちでやるんだという思いを持って作りました!



杉の子クラブ(高学年の子どもたち)のおもしろいコントやカッコいいダンスから始まり、1・2年生は劇を披露しました。3年生は詩の朗読と南中ソーランを見せました!たくさんの保護者やお客さんの前で緊張もあったと思いますが、子どもたちは自信を持って発表していました!



保育所 あすなろ (おうち保育)

おみせやさんごっこ楽しいな〜♪

おうち保育では1歳~12歳までの子どもたちが夕食を一緒に食べています。優しいお姉ちゃん・お兄ちゃん(小学生)への憧れをもてる関係作りも大事にしてきました。

言葉のやりとりが少ない子どもたちには、大きいお友だちのやりとりを見て、真似っこして、会話が增えるといいなと思い、お店屋さんごっこをしましたよ。始めは、物を選んでレジに並ぶだけの参加の仕方をしていた子どもたちも遊びを繰り返して経験することで、お店屋さんになったり、お客さんになったりして色々な役を楽しみ始めました。自然と楽しい声の掛け合いも聞こえるようになりましたよ。おうち保育ではお兄ちゃん・お姉ちゃん存在がたくさんの学びをくれていますよ。

文責 達川 裕美

いらっしやいませ〜

これくだしやい



ぼくは、レジがかいがしたいな〜

ありがと〜う

ジュース
ありますよ〜♪



保育所 北丘聖愛園 初めての取り組み! ★5歳児 五月山登山★

文責：藤原 歩美

今年度、初めて5歳児が五月山登山に挑戦しました。初めの取り組みとしてまずは、歩く距離を延ばし“歩き込み”をしました。そこで子どもたちはたくさん歩くと体が疲れることを感じ、そこで疲れた時はどうするのか?自分だけが頑張ったらいいいのか?などを子どもたち同士話し合いながら考えてきました。そんな初めての取り組みの様子をお伝えしたいと思います。



この写真は山の斜面を登っているところです。大人でも息があがるほどの斜面を「ファイト!」と先頭のグループが引っ張り子どもたち同士で励ましあい協力しあいながら登っていました。階段では一歩一歩、踏みしめて歩き「この段、危ないで〜!」と気付くと自分よりも後ろの友だちに知らせる姿もありました。「自分だけが頑張るのではない」そんな気持ちがみられた場面でした。

景色のいいところで0~4歳児クラスからもらったプレゼントを開ける子どもたち。登り終えて疲れたところに嬉しいプレゼント!疲れなんて吹っ飛んだかのようにみんな笑顔になっていましたよ。体調不良や家の用事でこれなかった友だちの分もグループのリーダーが受け取り空にむかって、その友だちの名前を呼んでいました。プレゼントは「お守り」でそのお守りの中には、甘い砂糖のお菓子が入っていました!



たてわりサマーキャンプ、うんどう会などの行事で一人一人に力がついたからこそ、五月山登山を無事に終えることができたのだと思います。友だちを信じる力、頼られ頼りあう仲間関係、そして乗り越えた時につく自信や力。5歳児の子どもたちはきつと何かを感じつかんできたと思います。さらに成長した5歳児たち。卒園式ではよりたくましくなった姿を見せてくれることだと思います。



しんどいのが帰り道です。急な階段をくだって降りるのですが力を抜いてしまうと滑りそうになり転んでしまいそうになります。そんな時こそ子どもたちで声を掛け合い励ましあう!「ファイト!ファイト!」この掛け声は北丘聖愛園に着くまで止まることはありませんでした。そして園について…みんな「やったー!」と喜びをみんなで共有しました。

日韓保育交流 北丘聖愛園に韓国の先生が来てくれたよ!!

文責：内田由香里

10月28日から4日間うさぎ組(2歳児)にチョハンオックさんが来てくれました。子どもたちはチョさんが来る前から韓国語のあいさつ“アンニョハセヨ”と覚えて楽しみにしていました。今でも教えてもらった韓国の手遊びや歌を口ずさんでいます。交流の様子をお伝えします。



チョさんが来た初日に「一緒にしよう!」と子どもが話しかけていました。もちろんチョさんには言葉は通じていませんが一緒に走りだしていました。その姿に子どもたちの一生懸命な気持ちが通じ、言葉は通じなくても気持ちをこめれば気持ちが伝わるのだなと子どもたちから学ばせてもらいました。



園庭やお散歩にも一緒に出かけました。「手をつなごう!」「こっちにきて〜」とどんどん話しかけて甘えていました。すぐに仲良くなった子どもたち。みんなチョさんが大好きでいつもチョさんの周りに集まっていた。子どもにとっても大人にとっても楽しい時間になりました。



チョさんから「子どもたちの勢いやパワーをすごく感じて私もパワーをもらいました」と言ってもらいました。4日間という短い時間でしたがチョさんが子どもと向き合いそして私たちとも向き合い話しを聞いて気持ちを汲み取ろうとしてくれました。そのことから改めて向き合うことの大切さに気付かされる交流となりました。
チョさんと韓国の保育園のこと、北丘の保育園のことについて話をしました。保育園での様々な違いがあり驚く事もありました。しかしチョさんの子どもに接する姿を見ていて国や言葉は違っても子どもを思う気持ちは一緒だと感じました。同じ子どもの育ちをみている者同士、これから交流を深めお互いの保育に繋げていきたいです。

保育所 豊新聖愛園 2大行事、その裏では…

毎年、保育所の2大行事である『うんどうかい』と『生活発表会』の2週間前の土曜日に保護者の方に協力して頂き“道具作り”を行っています。子どもたちが着る衣装や背景、大道具・小道具などたくさんの作るものがあるのですが、保護者のみなさんは子どもたちのために少しでも時間を割いてお手伝いしてくださっています。毎年参加の方の中にはまるで職人又は芸術家のように、次々と道具を完成させてくださり心強いのです。

また、職員と普段中々話せないことを話したり保護者同士の交流の場にもなっています。

園の行事もこうした、たくさんの保護者に支えられ、一緒に子育てをしている実感を感じる瞬間でもあります。これから一緒に子どもたちの応援をしていきたいと思ひます。(文責：越後)



会話をはずませながら、子どもたちのためにと精を出す保護者のみなさん

発表会当日、こんなふうに舞台や子どもたちの使う小道具として活躍しています

わがくさ

毎月ポプラでは外出活動をしています。今月はなんと子ども達にどこに行くかを決めてもらいました。

子ども達に決めてもらうのは初めてだったんで最初は戸惑っていましたが、じょじょに言葉が出始め、「海遊館・動物園・パイキング！」などなどたくさん案が出ました。その中からどれにするかを話し合い多数決を取り、パイキングに決定しました。しかし、パイキングに行ったことのある子ども達は知っていても知らない子ども達もいるんで一度ポプラでお菓子パイキングを開催しました。目の前に広がるお菓子に悩む子ども達、まずはこうだよと職員が見本をみせてやってもらいました。みんな後の人を考えて少しずつしか取っていませんでしたが、中にはどさっと取



てる子もいました。~~~~ぞしぞパイキング当日、なんだかみんなぞわぞわしながらのスタート~~~~

みんな食べたい物にまっしぐらかと思えばしっかりおぼんを持ち、食べたい物を少量ずつ取り席に座りみんなが来るのを待ち頂きますをしている子ども達、職員は、ハラハラしていましたがそんな心配ご無用の子ども達で、この一年でまた一段と成長したんだと思うパイキングでした。

さくらんぼルーム

12月8日～12月12日までを保育参観週とし、保育参観を3日間、保護者会を1日開催しました。3日間とも皆勤賞のお母さんもおられましたよ(〆〆〆)／また、おばあちゃん参加もあり、和やかなほほえましい参観となりました。

1日目は、クリスマスツリー(帽子)の製作、親子で作ってもらいました。

2日目は、ミュージック・ケア(集団音楽療法)、お母さんたちも一緒に楽しみました。

3日目は、体育遊び。ポプラのへやを使って、マットやトランポリンに取り組む姿を見てもらいました。

保護者会では、体調をくずす子がいたり上の子の幼稚園のお迎えが重なって来られない方もおられて少ない人数でしたが、“さくらんぼに来るようになってこんなところが変わったよ”とうれしいお話も聞けました。朝からの雨も終わる頃には止んでいて、お母さん同士が情報交換する姿も見られました。(文責：栗野)



出来上がるツリーが
すてきなツリーが
上がるわいいね!



♪おもちゃの兵隊の
曲に合わせて
鈴鳴らそうね



みんなも、1本橋
かっこよく渡るかな

路交館 これからの予定

聖愛園・保育所あすなろ(おうち保育)・地子せ

1月8日(木)	ゆり(5歳児)クラブ発足
1月10日(土)	新春親子もちつき大会
1月22日(木)	(おうち保育)お楽しみ会
1月24日(土)	5歳児夢いっぱいコンサート(午前)
2月3日(火)	節分集会 (おうち保育)節分
2月20日(金)	(おうち保育)ゆりありがとう会&懇親会
3月6日(金)	(おうち保育)楽しかったねパーティー
3月9日(月)	たてわり(3・4・5歳児)おわかれ会
3月14日(土)	聖愛園卒園式
3月18日(火)	(地コセ)どんくま卒室式

子ども館

1月31日(土)~2月1日(日)	つくしクラブ思い出旅行
3月7日(土)	つくし卒室式

北丘聖愛園

1月10日(土)	親子もちつき大会
1月20日(火)	おたのしみ会(クッキーズ)
1月24日(土)	5歳児夢いっぱいコンサート(午前)
2月2日(月)	作品展(7日(土)まで)
2月3日(火)	節分集会
2月17日(火)	マラソン大会
2月19日(木)	マラソン大会予備日
2月24日(火)	お別れ遠足(0歳児)
2月25日(水)	お別れ遠足(2歳児)
2月27日(金)	お別れ遠足(5歳児)
3月5日(木)	お別れ遠足(1歳児)
3月10日(火)	お別れ遠足(3・4歳児)
3月12日(木)	5歳児お別れ会
3月14日(土)	卒園式
3月20日(金)	修了式(0~4歳児)
3月23日(月)	クラス移動

豊新聖愛園

1月10日(土)	もちつき大会
1月13日(火)~17日(土)	作品展
1月24日(土)	5歳児夢いっぱいコンサート(午前)
1月30日(金)	にじぐみお別れ遠足
2月2日(月)	ゆり(5歳児)クラブ発足
2月3日(火)	節分集会
2月4日(水)	ゆり(5歳児)お別れ遠足
2月13日(金)	にじぐみお別れ遠足
2月14日(土)	にじ(3・4・5歳児)やんちゃっこ広場
2月21日(土)	そら(1・2歳児)やんちゃっこ広場・進級懇談
2月27日(金)	おひさま(0歳児)そら(1・2歳児)お別れ遠足
3月6日(金)	ほし(2歳児)お別れ遠足
3月7日(土)	おひさま(0歳児)やんちゃっこ広場
3月14日(土)	豊新聖愛園卒園式
3月23日(月)	進級式

桜の園

1月24日(土)	もちつき大会
----------	--------

わかくさ

1月23日(金)・24日(土)	ポプラ展
3月14日(土)	卒室式

ういず守口

2月14日(土)	春のコンサート
----------	---------

給食室おすすめレシピ

干草焼(約4~5人分)

材 料

玉子	300g(6コ)	サラダ油	20g(大1、小1)
鶏ミンチ	200g	砂糖	9g(大1)
人参	90g(小1/2)	みりん	14g(大1)
干しいたけ	18g	塩	4.5g(小1)
青ねぎ	40g(2本ぐらい)	しいたけつけ汁	75cc

作り方

- ①干しいたけをひたひたの水に浸けてもどしておく。
- ②人参、①のしいたけはみじん切り。
- ③青ねぎは小口切り。
- ④しいたけのもどし汁に、砂糖・塩・みりんの調味料をいれ合わせておく。
- ⑤玉子をボールに割りほぐし、④を入れ合わせておく。
- ⑥フライパンを熱し、サラダ油を入れて、中火で人参・しいたけを炒める。
- ⑦人参が柔らかくなったら、⑤を入れて、こがさないように半熟になるまで、ゆっくり混ぜる。
- ⑧全体が固まってきたら、上に③の青ねぎをちらし、火を弱火にして、フライパンにふたをし、蒸しやきにする。(パットに流し入れ、オーブン170℃ 18分焼いても良い)
- ⑨食べやすい大きさに切り分けて、皿に盛り付ける。

※なますと一緒に、おせちの一品にいかがでしょうか。



★後援会加入&寄附のお願い★

路交館後援会へ加入のお願いです。会費は一口1,500円からで、あいどるの郵送料などに使わせていただきます。後援会費は入金日より1年間有効です。ご協力のほどよろしくお願いします。

また、当法人の保育・活動にご賛同・ご支援いただける法人・団体・個人の皆様からのご寄附の協力をお願いしています。お寄せいただいた寄附金は、利用者の皆様への更なるサービスの充実、各施設の施設・設備整備等に使わせていただきます。皆様からの暖かいご支援・ご援助を心からお願い申し上げます。

※どちらも同封の払込用紙を使っていただければ、手数料は当法人負担になります。

編集後記

明けましておめでとうございます。今年も笑顔あふれる年になりますようお祈りいたします。

2014年度の『あいどる』は春・夏・秋・新春号として年4回発行してきました。

恒例行事の取り組みのこと、新しい事業所の紹介など、路交館を知っている方はもちろん初めて読まれた方にも楽しんでいただける内容になるよう、あいどる委員みんなで作り上げて来ました。来年度も『あいどる』を手にした方が記事を読んで「今年もこの季節が来たね」「頑張ってるね」「新しい事始めたんやね」など楽しみにしていただけるよう、あいどる委員一同、心を込めて取り組んでいきますので2015年度もよろしくお願いします。

編集担当 あいどる委員 中川

子ども子育て支援新制度と幼保連携型認定こども園への移行について

1. 子ども・子育て支援新制度について

日本の子ども・子育てをめぐる様々な課題を解決するために、「子ども・子育て支援新制度」が、平成24(2012)年8月に成立し、平成27(2015)年4月から本格スタートすることになります。

「子ども・子育て支援新制度」とは、「子ども・子育て支援法」、「認定こども園法の一部改正」、「子ども・子育て支援法及び認定こども園法の一部改正法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」の子ども・子育て関連3法に基づく制度のことをいいます

この法律は、すべての子どもたちが、笑顔で成長していくために幼児期の学校教育や保育の充実を図ると共に、すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるために、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を図ることを目的としています。つまり、これまでの個人の責任であった子育てを、社会全体で支援していこうとする仕組みとなっています。

2. 認定子ども園の普及について

幼稚園と保育所については、近年、保護者の就労の有無で利用施設が限定されてしまうことや、少子化が進む中で、幼稚園と保育所が地域に別々に設置されていると、子どもの成長に必要な規模の集団が確保されにくいこと、子育てについて不安や負担を感じている保護者の方への支援が不足していることなどの課題が指摘されており、制度の枠組を超えた柔軟な対応が求められていました。

このような環境の変化を受け、幼稚園と保育所の良いところを活かしながら、その両方の役割を果たすことができるような新しい枠組を創ろうという観点から、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」が制定され、この法律に基づき、就学前の教育・保育ニーズに対応する新たな選択肢である「認定子ども園」が平成18(2006)年10月からスタートしています。しかし、二重行政や運営費補助などの問題から、「認定子ども園」の普及はなかなか進んでいませんでした。

今回、子ども・子育て支援新制度の成立に伴い、保育所や幼稚園からの認定子ども園への移行手続きが簡略化され、また、より運用しやすくなる仕組みとなりました。

3. 新制度で増える保育・教育の場について

これまで小学校就学前の施設としては、幼稚園と保育所の2つが多く利用されてきました。

新制度では、幼稚園と保育所に加えて、地域の実情に応じて両方の良さをあわせ持つ「認定こども園」の普及が図られることになりました。

「認定こども園」は、施設の目的にあわせて「幼保連携型」「幼稚園型」「保育園型」「地方裁量型」の4種類に分けられますが、国はこれからの幼児教育と保育を、「幼保連携型認定こども園」を中心に進めようとしています。

また、新制度は、共働き家庭だけでなく、すべての子育て家庭を支援する仕組みとして、家庭で子育てをする保護者も利用できる「一時預かり」や、身近なところで子育て相談などが受けられる「地域子育て支援拠点」、保護者が昼間家庭にいない小学生の通う「放課後児童クラブ」など、地域の様々な子育て支援を充実していくことを目指しています。また家庭に合った支援を受けられるように利用者支援事業も創設されます。

4. 路交館の目指す方向性について

さて、路交館では、これまで法人の柱として掲げてきた「障がい児」共同保育をより充実した保育（教育）にしていくためにも、「幼保連携型認定こども園」に移行することを目指します。

違うニーズのある子ども達とその親が園にやってくる。いわば今よりもさらに枠の広いインクルーシブ保育（教育）をつくっていくきっかけになると考えています。

新制度を通じて地域の子育て中の家庭が園につながる機会をより広げるとともに質の高いものとして認められる子育て施設としての路交館でありたい、少子化になっても、行政から委託されるのではなく、市民の方から選ばれる事業所になりたいという思いで路交館は保育所から幼保連携型認定こども園移行の選択をしました。

現在、路交館の保育所4園のうち、保育所聖愛園、保育所あすなろ、保育所北丘聖愛園の3ヵ園は所在する市と「幼保連携型認定こども園」への移行に向けた協議・調整を行っています。2015年4月からは「幼保連携型認定こども園」として開園する予定です。

保育所豊新聖愛園は緊急一時保護等の他の福祉制度との整合性を模索するため次年度の移行を見送りました。統合性やその整合性の検討結果によっては、3ヶ園同様に移行できるように努めていく方向です。

制度が変わっても、路交館の保育理念や保育への姿勢は変わりません。これまで通りの良い子育て環境・保育環境をめざしてまいりますので、認定こども園移行についてのご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

法人事務局長 稲葉 隆